「日本庭園」の定義に関する考察

A Study on the Definition of “Japanese garden” as a Scientific Term

鈴木 誠

Makoto Suzuki

東京農業大学造園学科

キーワード：1. 日本庭園   2. 定 義   3. 学術用語
Japanese garden   definition   scientific terms

要 旨

学術用語「日本庭園」の用語規定を目的として、その定義について考察した。方法としては「日本庭園」という語句に関して①一般的辞典・事典類中の語義を調べ、次に②専門的（造園関連分野）辞典・事典類（和書）中の定義・解説にあたり、また③洋書中の専門的辞典・事典類の解説にもあたった。そして、庭園に関する④学術専門書等の中にみられる用語規定・定義の類を調べ、総合的に考察した。その結果、一般的に流布している「日本庭園」だが、見出し語として辞典類にはなく、また事典類においても多くは「庭園」の項において特徴的、歴史的な解説がなされ、用語規定、定義を明確にするものはほとんどなかった。唯一用語規定を明確にするのは『造園大辞典』（上原敬二、加島書店、1978）である。結論として、日本にある庭一般を指す「日本庭園」と日本の伝統的技法、構成による庭園形式「日本式庭園」の区別を明確にすべきことを指摘し、またその用語法にも論及した。

SUMMARY

The author studied the definition of “Japanese garden” as a scientific term. The meaning of the word “Japanese garden” was considered through ① general dictionary, ② dictionary on the field of garden and landscape architecture in Japanese, ③ dictionary on the field in another languages,

and ④ technical books on Japanese gardens and or gardens in Japan.

We usually use the word “Japanese garden”, but we could hardly find the definition as a scientific term. Furthermore there is some confusion in the usage of the word “Japanese garden”. So that the author recommended to use “Japanese garden” for the garden in Japan and “Japanese traditional garden” for Japanese style garden.

1. 緒 言

1992年6月21日「日本庭園学会」が発足した。学術研究団体、即ち学会の存立意義は当該分野における学術研究の深化と、その成果の社会還元にある。

さて、日本庭園学会は「日本庭園とそれに関わる研究の連絡提携および促進をはかり、もって日本庭園の発展と社会的啓蒙に貢献することを目的とする。」（定款第2章第3条）この目的遂行のため、学会員は日本庭園分野の研究における、あるいは対象としての日本庭園の研究を通じたその成果を社会一般に問うことになる。

以上ごくあたりまえのことを確認してみたが、ここでもう一つ再確認しなければならない事実を指摘しておきたい。それは、研究対象として掲げる「日本庭園」とは何か？その意味するものの確認、学術用語としての「日本庭園」の定義の問題である。

この問題に関しては、日本庭園学会第14回定例研究会

(1995年7月29日)において石川格会長が、その講演「私見・日本庭園研究とその方向性」の中で言及し、『日本庭園』という用語の学問的定義は未だなされていない状況にあるが、以上に指摘した点を踏まえてこれから学会で十分議論して欲しい。」¹⁾といった見解を示し、本考察の意義を認めている。

本考察では、この「日本庭園」という用語の一般的使用と、学術的使用の考察を通じこれまでの用語法の問題点を指摘、総括を行い科学術語としての「日本庭園」の用語規定、即ちその定義を目的としている。

ところで、具体的考察に入る前に、その前提となる学術用語・科学術語(scientific terms)としての「日本庭園」が存在するか否かをまず確かめよう。この方面の基礎文献である『学術用語集集成』[(財)日本科学協会編・刊、1988]には、「日本庭園、Japanese garden <農学>」と掲載される。これは『造園学用語集』(日本造園学会編、養賢堂、1979)に「日本庭園(にほんていえん)=Japanese garden」として収録されているものを採録したと考えられる。ともかく、学術用語としての「日本庭園」は存在している。

2. 考察の手順と方法

具体的な考察は、以下の4つに分類した文献にあたり、その中で解説される「日本庭園」の定義を抽出して実施した。

1) 一般的辞典・事典類の定義

語学辞典、百科事典、文化・歴史事典類

2) 専門的辞典・事典類の定義(和書)

造園関連分野の辞典・事典類

3) 専門的辞典・事典類の定義(洋書)

造園関連分野の辞典・事典類

4) 学術専門書の中にみられる定義・用語規定

3. 各種辞典・事典類にみる「日本庭園」

(1) 一般的辞典・事典類の定義

(i) 語学関連の辞典にみる「日本庭園」

下記の語学関連の代表的辞典に「日本庭園」の語義を引いた。その結果、「日本庭園」あるいは“Japanese garden”は見当たらず、見出し語として「庭園」「garden」があるのみであった。したがって、「日本庭園」の語義

に関する記述は見られない。

○新村出編、広辞苑・第4版、岩波書店、1991

○日本国語大事典編集委員会編、日本国語大辞典 全20巻、小学館、1975

○小学館ランダムハウス編、小学館ランダムハウス英和大辞典、小学館、1974

○小稲義男ほか編、研究社新英和大辞典(第5版)、研究社、1980

(ii) 百科事典、文化歴史事典類の「日本庭園」

このジャンルの全ての文献を調べたわけではないが、下記のような代表的文献にあたり、解説される内容に定義をもとめた。その結果は以下の通りである。

「庭園」という項目として日本の庭園に関しその特色、歴史的な解説はあるものの「日本庭園」といった見出し語はなく、定義、用語規定が見当たらないもの。

○大島建彦ほか編、日本を知る事典、社会思想社、1971

○森蔵、日本史小百科19・庭園、近藤出版、1984

○新日本製鐵株式会社編、日本—その姿と心—(第2版)、学生社、1984

○石田尚豊ほか監修、日本美術史事典、平凡社、1987

○世界大百科事典編集委員会編、世界大百科事典、平凡社、1988

次の2点は「日本庭園」の見出し語はあるが、日本の庭園の特色、歴史的解説のみで定義、用語規定がないものである。

○木村尚三郎監修、日本のすべて〔英文対訳〕

INTRODUCTION TO JAPAN、三省堂、1987

○本名信行、ベイツ・ホッフア編、日本文化を英語で説明する辞典、有斐閣、1986

(2) 専門的辞典・事典類の定義(和書)

「庭園」の見出しはあるが「日本庭園」はないもの(「日本庭園」の定義もない)、あるいは書名に「庭園」「庭」の字句を用いるが書中に「日本庭園」の見出し語がない。

○農政調査委員会農業百科事典編纂室編、体系農業百科事典(全8巻)第Ⅶ巻造園、農政調査委員会、1967

○吉河功、日本庭園用語図解、日本庭園研究会、1970

「日本庭園」「庭園」以外の日本の庭に関する用語辞典。

○重森三玲、茶室茶庭事典、誠文堂新光社、1973

○重森三玲、日本庭園歴覧辞典、東京堂出版、1974

個別の庭園に関する辞典で、取り扱う「日本庭園」とは何かといった定義は見られない。

○下出源七編、建築大辞典・第二版、彰国社、1993
第二版になり「日本庭園の様式」という解説が加わるが、「日本庭園」の定義は見られない。

○岡崎文彬編著、造園事典、養賢堂、1974

○龍居庭園研究所編、庭づくりの用語事典、建築資料研究社、1987

日本での庭づくりに関する用語事典で「日本庭園」「庭園」「庭」の解説は無い。

「日本庭園」の見出し語はあるが、日本の庭園に関する主として歴史的な解説はあるものの、語意に関する定義、用語規定は見当たらないもの。

○東京農業大学造園学科編、造園用語辞典、彰国社、1985
以下2点については、「日本庭園」についての用語規定がみられた。

○上原敬二、造園大辞典、加島書店、1978

「日本庭園(japanese garden)」：日本に見られる庭園の意、古式を守ると守らざるとを問わない、一般の名称、しかし無意識に日本式庭園を意味している場合が多い。

「日本式庭園(時にjapanese traditional garden)」：日本式の庭ともいう。日本の庭園の古式、伝統を守ってつくられた日本庭園をいう。

○近藤公夫、「日本庭園」、造園修景大事典、同朋舎出版、1980

「日本庭園」：和風庭園とも言い、日本において発生、発達した様式・類型の庭園として理解される。(以下略)

(3)専門的辞典・事典類の定義(洋書)

次に、欧米における「日本庭園」の一般的用語解説を検討した。これは、日本文化を代表するものの一つとして日本庭園があり、本研究に直接係わること、また欧米における「日本庭園」に関する一般的理解を概観しておくことも念頭に置いた。

○Goode, Patrick and Michael Lancaster ed.(1986), The Oxford Companion to Gardens, Oxford University Press, 30.

“Japanese garden”の見出し語があるが、英国におけるJapanese garden 導入の歴史的概観が述べら

れるのみで、日本の庭園については大項目“Japan”の中で、特徴と略史が解説される。

○Everett, Thomas H.(1981), The New York Botanical Garden Illustrated Encyclopedia of Horticulture, Vol.6, Garland Publishing, Inc., 1841-1847.

“Japanese gardens”の見出し語があり、作庭を念頭においたJapanese garden の特徴やディテール、樹木の解説がなされる。

○Morrow, Baker H.(1987), A Dictionary of Landscape Architecture, University of New Mexico Press, 171-172.

“Japanese landscape architecture”という項目で日本の庭の解説がなされ、文中に1カ所“Japanese garden”の語が登場するだけである。

「庭園」という見出しはあっても「日本庭園」という見出し語がないもの。(「日本庭園」の定義もみられない)

○Burte, Jean-Noël dir.(1992), Le Bon Jardinier: Encyclopédie Horticole 153^e édition, La Maison Rustique, 976.

“Les Jardins Zen au Japon”の見出し語による禅の庭の解説はあるが“Jardin Japonne”に関するものは全くない。

○Brickell, Christopher (1992), Encyclopedia of Gardening, The Royal Horticultural Society, Dorling Kindersley, 30.

“Japanese garden”の見出し語はなく“Garden styles”の節に“Oriental influences”という項目として、中国庭園と共に解説される。

以上、海外に紹介すべき「日本庭園」の用語使用にも注意を払わなければならない現状が指摘され、同時に、欧米における「日本庭園」についての一般的理解の程度も結果として知ることができた。

4. 学術専門書の中の「日本庭園」

日本における学術専門書については、書名に「日本庭園」あるいはその類似語が用いられているものを調べ、以下の結果を得た。

「日本庭園」「日本の庭園」という書名を付しながら用語の規定がみられない専門書。

○田中正大、日本の庭園、鹿島研究所出版会、1967

日本庭園が自然風景式かどうかといった概念規定には著作全体において触れる。

- 齊藤勝雄・和田貞次、日本庭園の秘宝〈渋さの解明〉、日貿出版社、1970

この本は“Magic of Trees & Stones: Secret of Japanese Gardening”として同社より1964年に出版されたものの日本語版。

- 伊藤ていじ・他、日本の庭、中央公論社、1971

なおこの本の「まえがき」によれば、英語版の出版を前提に仕上げたものという。

こうした中で、日本の庭園に関する著作の内、以下のものが、その本の冒頭やあとがき部分で、「日本の庭」、「日本の庭園」、「日本式庭園」、「日本庭園」、あるいは「日本のにわ」「日本庭」などのいずれかをうい言葉の使い分けをしてる。

- 近藤正一、古今図説・庭園築造法、博文館、1914、1、緒言にて「日本式庭園」の語法をとる。

- 龍居松之助、造園叢書(5) 日本式庭園、雄山閣、1928
書名は「日本式庭園」の語法を用いるが、記述内容では「日本庭園」と「日本式庭園」を混同して使用。

- 吉永義信、日本の庭園、彰国社、1958、218。

「あとがき」にて「日本の庭園といっても、現代庭園をいうのではない。われわれの祖先が作った古い庭園を指すのであって、現代人が思いもよらない構想で設計された庭園をいうのである。そうした古庭園が……」サブタイトルに“Japanese Traditional Gardens”を使用。

- 吉村巖、日本庭園、朝倉書店、1959、序。

日本の庭園一般を「日本庭園」、日本の伝統的庭園を「日本庭」と使い分けしている。

- 森蘊、日本の庭園、吉川弘文館、1964、1。

「はじめに」で「日本式庭園」と「日本庭園」を使い分ける。ただし、同一著者の『日本庭園の伝統』（一條書房、1944）では「日本庭園」を主として使用し解説。

- 中根金作、庭、保育社、1973

「日本の庭」に統一して記述、必要に応じて「日本庭園」も使う。

- 江山正美、庭の文化史—日本のにわ考、文一総合出版、1978

「日本のにわ」、「日本の庭」、「日本庭園」、「日本式庭園」を区別して使用。

- 重森三玲監修、日本の庭園・名園編、毎日新聞社、1981、7-15。

山本健吉の「序文・日本の庭について」では「日本の庭」、「日本式庭園」などが区別されるが、その他の部分に明確な用語規定は見られない。同書の英文名は“Japanese Landscape Gardens”

- 岡崎文彬、集成 日本古庭園（上・下巻）、同朋舎出版、1985、ii-iii。

「まえがき」で「収録にあたいする日本の庭園—日本国内の庭園という意味でいわゆる日本式庭園とは限らない」とし用語を明確に使い分けている。

- 進士五十八、日本庭園の特質、東京農業大学出版会、1989、I。

「まえがき」で「日本式庭園」と「日本庭園」を使い分けている。

これら数多くの書籍の中でも、特に明快に「日本庭園」と「日本式庭園」の区別を説くのは、やはり上原である。

- 上原敬二、日本式庭園、加島書店、1962、1-3。総説
「ここに日本式庭園というのは、古来伝統にはぐくまれて発達して来た、いわば純粹の日本の庭という意味である。日本庭園という言葉のうちにも、この意味はふくまれているものの、意義が少しく異なっている。普通に日本庭園といえば、文字通り日本で見られる庭のことで、それは古来のもののほか欧米文化の影響を受けた様式のものも加えられる。旧来の日本式庭園は、言いかえれば、伝統の庭（Japanese Traditional Garden）なのである。それがよいとか、わるいとかいう意味でここに叙述しているのではなく、在りのままの姿で説明を進めていきたい。」

以上、日本庭園に関する記述の見られる、14冊の代表的と考えられる文献の検討からも、「日本庭園」の用語規定が厳密にされることが少なかったことがわかる。

5. 「庭園」と「日本庭園」

さて、ここで「日本庭園」から「日本」をとった用語「庭園」について、若干ふれておく必要がある。「庭園」の語は明治6（1873）年小澤圭次郎が著した『明治庭園記』で用いられたのが最初という説が近年までとられ²⁾、

この語は小澤の造語もしくは訳語であろうと推論されていた³⁾。しかし、針ヶ谷は江戸時代『雍州府誌』(黒川道祐、貞享元年、1684)の中に、既に登場することを指摘し、その他江戸時代・明治時代初期の文献を加え「庭園」の語のわが国での使用は大体明治15(1882)年頃としている⁴⁾。いずれにしても、「庭園」の語が一般に盛んに用いられるようになったのは明治時代も中頃になってから、と考えてよい。

それでは、「日本庭園」はどうか。書名では、杉本文太郎『純正日本庭園解説』(工友社、明治43年、1919)が最も早いが、『“純正日本”庭園解説』という用い方であり、実際には外山英策『源氏物語と日本庭園』(塚本文友堂、昭和2年、1927)、龍居松之助『日本式庭園』(雄山閣、昭和3年、1928)をまつ。

このほか、現在70数年の歴史をもつ「日本庭園協会(The Garden Society of Japan)」の名称にこの字句が見える。この団体は大正7(1918)年の「庭園協会」の設立に始まる。発足6年後、大正13(1924)年12月に協会名の改称を決定し、翌大正14(1925)年より「日本庭園協会」を使用する。これが、現在の(株)日本庭園協会の前身である。設立当時の会則にある目的「本会ノ目的ハ庭園及公園ノ発達ヲ期シ併セテ風致ノ修飾並ニ保存ヲ図ルニアリ」は、名称変更の後にも継承される。そして、現在の日本庭園協会の定款第三条は「この協会は庭園、公園、園芸及び風致に関する研究並びにこれに関する趣味の普及、及び発達を図ることを目的とする。」と述べる。これらの経緯、会則・定款にある目的を見れば“日本庭園”協会ではなく、日本“庭園協会”であることがよくわかる。したがって、その機関誌『庭園』の創刊号にも「日本庭園」の用語規定に関する記述はなく、「日本庭園協会」と改称した折りの機関誌にも「日本庭園」に関する同様な記述は見当たらない。

公刊書でこの字句をそのまま書名にするものは、岡崎文彬の『日本庭園』(弘文堂書房、昭和15年、1940)が嚆矢で、戦後『日本庭園(Gardens of Japan)』(No.1/1956~No.44/1971)という雑誌も登場する。この雑誌の創刊は昭和31(1956)年。京都林泉協会の機関誌『林泉』(戦前113号まで発行)の改題再刊号という位置づけ(京都林泉協会監修、林泉刊行会発行)としてスタートした。後に昭和32(1957)年9月第6号から監修者の記

載がなくなり、発行所も庭園刊行会となる。この『日本庭園』第4号(1957)に重森三玲の「日本庭園とは一」(p.13-17)という論説があり、「種々な定義」として「日本庭園を結論的に申しますと、自然の風景を何等かの意図によって再現するものであるとか、従って素材は自然のままのものをを用いたものと云うことになるのであります。」として概念規定を示している。また、第6号(p.44)に『誌名「日本庭園」について』と題した一文がある。「今日、日本庭園という言葉はよくつかわれています。小誌もこれを誌名としていますが、時、場所、人、によってこの日本庭園という言葉は夫々解釈せられているようです。広い意味で又狭い意味といろいろです。本誌の「日本庭園」という意味は、日本にある庭、日本に存在する庭園、と解釈していただきたい。スタイルという意味ではありません。洋・和風を問わず又古代庭園、新しい庭園(時間的)をも含めた広い範囲のものをさしています。(中略)個人住宅の庭より公共的なものへのつながりということが論じられ、庭=共同庭園=小公園=大公園という連帯的なものへとになっていくさざしが見られます。こういった立場から公共的なものも採り上げてゆく意向であります。」

6. 「日本庭園」の用語規定の問題点と総括

「日本庭園」の用語規定に係わる文献の調査結果を通じ、国内外の一般的な「日本庭園」の用語使用がいまいであることが指摘され、その原因の一端が専門家の「日本庭園」の用語使用にあることが危惧される。これについては、以下のシンポジウム結果が明確にその問題点の所在を示している。

昭和35(1960)年度日本造園学会秋季大会のシンポジウム(パネル・ディスカッション、司会:岡崎文彬、講師:森蘊、中根金作、江山正美)のテーマは「これからの日本庭園はどうあるべきか」であった。様々に議論されたようだが、「偶々、はしなくも“日本庭園”の語意そのものの解釈に相違があり企画者側(造園学会側)の出題のあいまいさがつかれ、はなやかな論戦となった。このようにして時間ぎれとなり結論的なものは見出し得ず、残念ながら意見の開陳だけに終わった。」(日本庭園、第19号、1960、p.44)。用語規定が重要であることを物語る。

現代においても「庭」の本質をついた定義は確立されていない⁵⁾、とするむきもあるが科学・学術の対象として「日本庭園」を考えるなら、用語規定と定義は重要である。さもないと、共通言語としての「日本庭園」を用いた議論・研究などに支障をきたすからである。そこで、「日本庭園」の用語法の考察を通じた総括として、筆者は日本庭園と日本式庭園の区別を良しとしつつ、「日本庭園」の学術用語法として表1のようなものを提案したい。

この「日本庭園」の学術用語法の提案は、「日本庭園」という語句をどう使用すべきか、という観点から「日本式庭園」の語句との対比を主として示し、体系的に周辺の用語を整理している。

またこの提案は、先にもふれたがグローバルな意味での「日本庭園」の用語法が大切であるとの前提に立っている。したがって、用語法の大枠として庭園がどこにあるのかといった空間的な規定として、「日本国内／日本国外」、次に誰が作庭したかという作者の規定として、「日本人／外国人」と続く。次に、表1の中央部分になるがこれまでも上原によって提案されている「日本庭園」と「日本式庭園」の使用区分を規範としつつ、「日本風庭園」と庭園の具体的「作品名」も加えて、庭園形式と

その学術用語使用例を対応させ「日本庭園」に係わる体系的な学術用語使用法とした。以下表中の学術用語使用例について説明を付すことにする。

- ①日本庭園：日本人が国内で作庭した庭で日本の伝統的形式以外のものの総称。ただしこの場合、前衛的なものなどは、作品名で呼ばれるべきである。
また、日本人が海外で作庭した伝統的形式による庭園も、厳密には「日本式庭園」だがこれまでの一般的使用に同じく「日本庭園」の用語使用も認めるべきであろう。
- ②日本式庭園：日本国内・国外を問わずどこで作庭されようと、日本人・外国人を問わずだれが作庭しようと、日本の伝統的形式をもった庭園は「日本式庭園」と呼ぶべきである。
- ③日本風庭園：外国人が国内、国外で「日本式庭園」を意図して作庭したものの中でも、その外観などから日本式庭園とは正式に言えないもの、また、日本庭園を意識して作庭されたものなどを称して「日本風庭園」としたい。
- ④作品名：庭園形式があるから「日本庭園」、「日本式庭園」の呼称が生まれる。厳密に特定の形式を持たない庭園は、その具体的「作品名」をもって表現すべきで

表1 「日本庭園」の学術用語法（鈴木 誠, 1993／1996改訂）

作庭地	作庭者	庭園形式	学術用語使用例	通 俗 的 用 語 使 用 例
日本国内	日本人	日本の伝統的形式	日本式庭園	日本庭園, 日本式庭園, 日本の庭園 日本の庭, 和風庭園, 和風の庭
		日本の伝統的形式外 特定形式なし	日本庭園 (又は作品名)	
	外国人	日本の伝統的形式	日本式庭園 日本風庭園	
		日本の伝統的形式外 特定形式なし	作品名	〇〇(国名)庭園 作品名
日本国外	日本人	日本の伝統的形式	日本式庭園 日本庭園	日本庭園 和風庭園
		日本の伝統的形式外 特定形式なし	作品名	作品名
	外国人	日本の伝統的形式	日本式庭園 日本風庭園	日本庭園 和風庭園
		日本の伝統的形式外 特定形式なし	作品名	〇〇(国名)庭園 作品名

注) この用語法では、作庭の時代規定(古庭園、伝統的庭園、歴史的庭園、史的庭園)と、庭園の価値・性格規定(名勝庭園、日本のにわ)は問わない。

ある。

加えて、表1では右端の欄になるが、これまで通俗的(一般的)に使用されている用語例との対応を示し、用語使用の意図するところの理解を試みた。逆にいえば、これまでは表1右端の通俗的用語使用例が多く氾濫し、研究対象あるいは議論の対象となるべき庭園の性格を規定する学術用語法とはなっていなかったといえよう。

7. 結 言

本論は、平成5年度日本庭園学会学術講演会における発表内容に加筆して、「日本庭園」の学術用語法についての論考を進めてきた。日本庭園に係わる学術の進歩には、明確な用語規定が重要であるからと考えたからである。そして、総括として「日本庭園」の学術用語法について私案を披露した。これは日本庭園学会における重要な課題への、議論の素材を用意したいと思ったからである。その意味で、この問題に関して学会員諸兄からのご批判等を期待したい。

最後に「日本庭園」の定義に関するもう一つの重要な側面、すなわち、この言葉の中身である概念規定の詳細については別途議論すべきと考えている。

(文献及び註)

- 1) 村上朝子、定例研究会報告「第14回定例研究会」、日本庭園学会ニュース、No.13、1995.11、p. 3
- 2) 石川格、庭園学概説、誠文堂新光社、1978、p. 9
では、「庭園」語は“garden”の訳語として明治40(1907)年ごろから盛んに用いられるようになった、とする。
- 3) 上原敬二、造園大系第二巻 庭園論、加島書店、1973、p.56
- 4) 針ヶ谷鐘吉、「庭園」という語の起源、庭 No.54、1980. 10、p.37-39
- 5) 龍居竹之介、おりおりの庭園論、建築資料研究社、1991、p.36